

# 国営海の中道海浜公園整備プログラム



平成21年4月

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況等 .....	1
(1) 全体計画 .....	1
(2) 開園の状況 .....	2
(3) 利用の状況 .....	2
2. 平成24年度までの整備及び管理運営の方針等 .....	3
(1) 今後5年間の管理運営の重点事項 .....	3
(2) 整備方針 .....	4
(3) 管理運営方針 .....	6
(4) 5年間の整備・管理運営によってもたらされる 効果 .....	8

# 1. 全体計画及び開園状況等

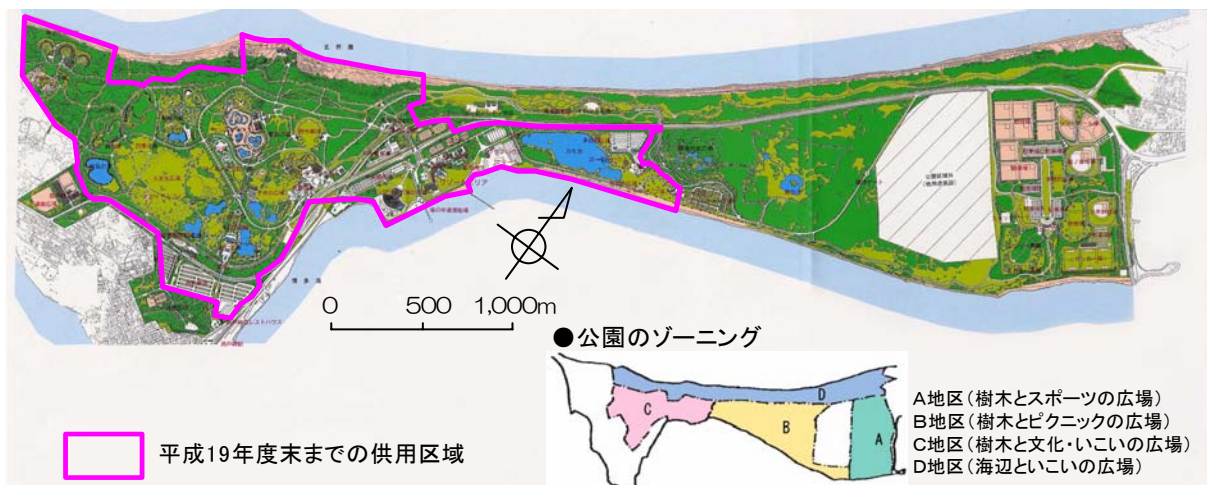
## (1) 全体計画

国営海の中道海浜公園は、福岡市東区の博多湾と玄界灘を隔てる半島、通称「海の中道」の中央部、幅0.5～1 km、長さ約6 kmの区間にわたって位置し、地形は平坦で、海浜地特有のクロマツ林を主体とした海岸線を有し、いわゆる白砂青松の景観を呈しています。

公園の計画面積は539.4haで、現在までの開園区域及び計画区域を4つのゾーンに区分し、「樹林とスポーツの広場（A地区）」、「樹林とピクニック広場（B地区）」、「樹林と文化・いこいの広場（C地区）」、「海辺といこいの広場（D地区）」としてそれぞれ整備を進めています。



<公園の位置>



<公園区域図>

## (2)開園の状況

国営海の中道海浜公園の設置は、昭和 47 年に返還された米軍博多基地（キャンプ博多）の跡地利用について様々な検討が行われたことに端を発しています。

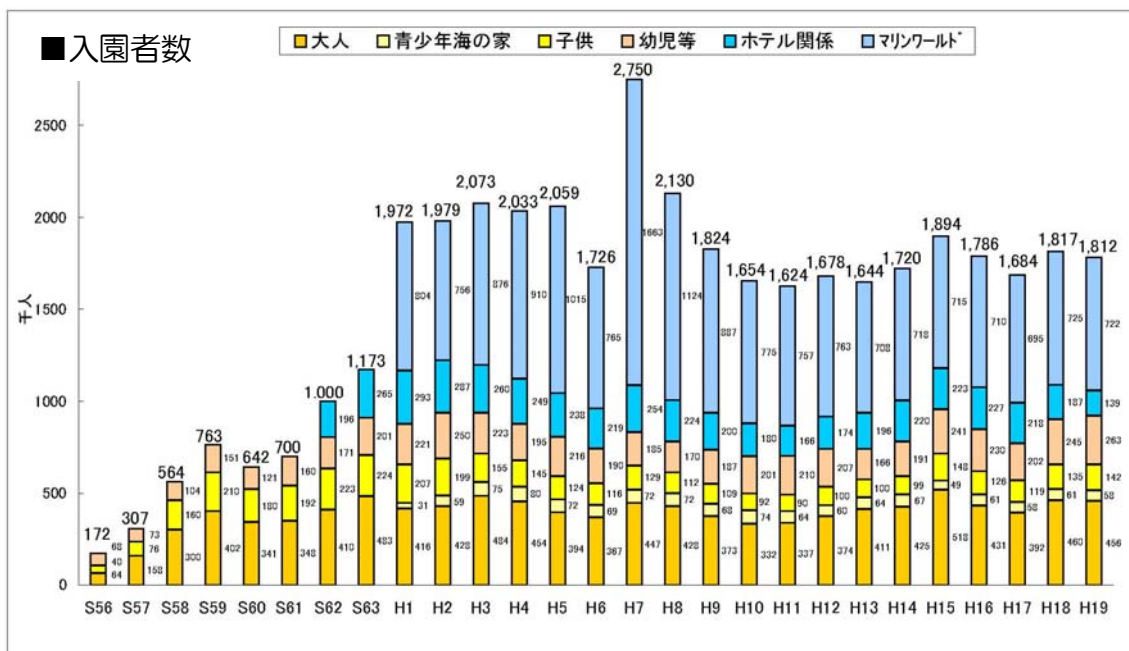
現況が、良好な自然環境を有する立地条件であったこと、北部九州を中心とする広域圏域のレクリエーション需要の増大に対応する施設が必要とされていたことから、大規模都市公園として昭和 50 年度に都市計画決定されました。

その後、昭和 51 年度より整備を進め、昭和 56 年 10 月に「西口広場」「大芝生広場」「動物の森」を含む約 59ha を開園しています。その後も整備が完了した区域より順次開園しており、平成 19 年度現在では、249.4ha（計画面積の 46%）が開園しています。

昭和47年	米軍博多基地返還(6月・11月)	515.2 ha
昭和50年	都市計画決定	
昭和51年	事業着手	
昭和56年	西口広場、大芝生広場、動物の森	59 ha
昭和58年	サンシャインプール	73 ha
昭和62年	ホテル海の中道(現ルイガンズ。)	116 ha
平成元・7年	マリンワールド(海洋生態科学館)	189 ha
平成14年	光と風の広場(デイキャンプ場等)	230 ha
平成17年	潮見台エリア(玄界灘側海浜部)	249 ha
供用面積 計		249 ha

## (3)利用の状況

開園から平成 19 年度末までの入園者累計は約 4,118 万人であり、平成 19 年度には約 181 万人の方々に利用されています。



## 2. 平成24年度までの整備及び管理運営の方針等

### (1) 今後5年間の整備・管理運営の重点事項

国営海の中道海浜公園は、昭和56年の開園以来26年にわたり、豊かな自然環境を保全、活用した広域的なレクリエーション拠点としての役割を担ってきました。

近年、身近な自然環境の減少、地球温暖化や少子高齢化の進展など、様々な社会的、国家的な課題が顕在化している中で、都市部に近接し、かつ広大なフィールドを有する当公園は、国営公園として、広域的なレクリエーション拠点としての役割はもとより、これら国家的に取り組むべき政策課題の解決に向け、積極的にその役割を果たすことが求められています。

このような社会的背景を踏まえ、利用者にとって更に魅力ある公園となるべく取り組みを推進するとともに、国営公園として当公園に求められる役割をより高度に発揮することを目的として、平成24年度までの5年間の整備・管理運営は、次の5つの重点事項に沿って行います。

#### 【海の中道海浜公園の役割】

北部九州地方の広域レクリエーション需要に対応できる場を提供します

#### 【5年間の整備・管理運営重点事項】

- 地球温暖化防止、循環型社会構築及び自然環境の保全・再生など環境との共生の取り組みを一層進めます。
- 平成18年6月に制定された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の施行も踏まえ、すべての人が安心して楽しく利用できるようユニバーサルデザイン<sup>(※)</sup>を進めます。
- 当公園が広域避難地であることも踏まえ、既存施設の耐震化なども含めた来園者及び周辺住民の方の安全・安心の確保を進めます。
- 地域と連携したイベントの開催など、地域の活性化に寄与します。
- 整備・管理運営に関して、市民参加をより一層進めるとともに、ライフサイクルコストの低減を含む総合的なコスト縮減を進めます。

※本整備プログラムでは、ユニバーサルデザインを年齢や障害の有無にかかわらず全ての人が利用しやすい物や施設の設計の考え方という意味で使用しており、バリアフリーもこの中に含むものとしました。

## (2)整備方針

### ○環境との共生の取組みの強化

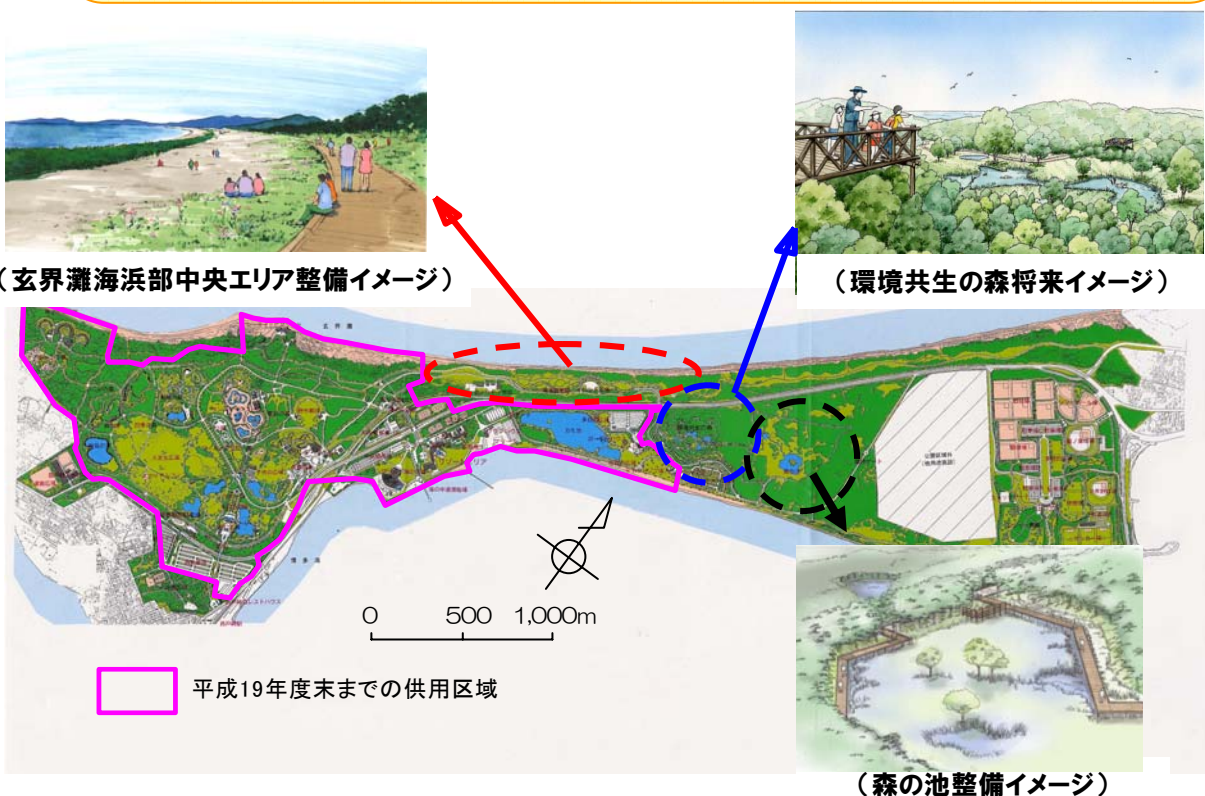
当公園では、平成10年に策定した「環境共生計画」に基づき、白砂青松の保全・創出や太陽光発電施設の設置など、地球温暖化防止、循環型社会の構築及び自然環境や生態系の保全・再生に資する公園整備を進めています。

今後5年間については、引き続き、これらの取組を推進するとともに、特に、ボランティアや小学生等が、この地域にあった自然の森を一から創り育てながら、自然環境と人との関わりなどについて継続的に体験し、学ぶことができるよう、北部九州地域における環境学習フィールドの核として、B地区「環境共生の森」の整備を進めます。

また、当公園が、佐賀県から福岡県にかけての玄界灘沿いの原風景である白砂青松の重要な一角を占めていることを踏まえ、D地区「玄界灘海浜部中央エリア」においては、当公園の周辺地域と一体となって白砂青松の保全・再生を進めるとともに、B地区「環境共生の森」と一体的に環境学習の場や散策の場などとしても活用できるよう整備を進めます。加えて、B地区「森の池エリア」についても、隣接する「環境共生の森」と一体となって北部九州地域における環境学習フィールドの核となるよう、既存の森を保全・活用しつつ整備を進めます。

### 【5年間の整備目標】

- ・ **B地区「環境共生の森」とD地区「玄界灘海浜部中央エリア」を平成22年春を目途に開園します。**
- ・ **B地区「森の池」の整備に着手します。**



## ○ハード面のユニバーサルデザインの推進

当公園では、トイレや休憩施設など特に早期対応が必要な施設から順次ユニバーサルデザインを進めています。

今後5年間については、引き続き、平成18年6月に制定された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に基づいたユニバーサルデザインを計画的に進めます。その際、動物とふれあえる「動物の森」や多種多様な遊具が楽しめる「子供の広場」、海が感じられる「潮見台」などの既存施設の魅力アップを図るとともに、これらの魅力を楽しめるネットワークの設定や改善など、すべての人が安心して楽しく利用できるよう、ユニバーサルデザインを進めます。



＜車いすの方が楽しめる花壇＞

また、九州地方では、外国人観光客、特にアジア諸国からの観光客が年々増加する傾向にあることを踏まえ、外国人向け広報の充実を図るとともに、外国人観光客が十分楽しめるようサービスの向上を図る観点からもユニバーサルデザイン（外国語表記サインや音声ガイダンスの充実など）を進めます。

### 【5年間の整備目標】

- ・**高齢者、障害者の方でも楽しめる施設へのアクセスや外国人観光客へのサービス向上を中心に、すべての人が安心して楽しく利用できるようユニバーサルデザインを進めます。**

### 【5年間の数値目標】

- ・**障害を持たれた方の年間利用者数  
25,987人(H19)→ 約3万8千人(H24)**

## ○安全・安心の確保

当公園では、開園後26年が経過し、老朽化した施設について、順次更新を行っています。

今後5年間については、引き続き、老朽化した施設の更新を、ライフサイクルコストの低減にも配慮しつつ、計画的に進めます。特に、当公園が広域避難地であることも踏まえ、安全性確保や耐震化などが急がれる施設については、優先的に整備を進めます。

### 【5年間の整備目標】

- ・**老朽化した施設の更新を、ライフサイクルコストの低減にも配慮しつつ、安全性確保が急がれる施設から計画的に進めます。**

### (3)管理運営方針

#### ○環境との共生を目指した管理運営の推進

当公園では、「環境共生計画」に基づき、植物廃材の堆肥化や環境学習の実施など、地球温暖化防止、循環型社会構築及び自然環境の保全・再生に資する管理運営を行っています。

今後5年間については、引き続き、これらの取組を推進するとともに、特に、B地区「環境共生の森」においては、北部九州地域における環境学習活動の核として、小学生を主体とした市民とともに、タネから森を育て、継続的に管理していく新しい取組みに着手し、地球温暖化防止や自然環境、生態系の保全・創出技術の普及啓発に努めます。

#### 【5年間の管理目標】

・B地区「環境共生の森」を活用した環境学習プログラムの活用などによる地球温暖化防止、自然環境、生態系の保全・創出技術の普及啓発活動を進めます。

#### 【5年間の数値目標】

・環境学習プログラム参加者数

5,986人(H19)→ 約1万5千人(H24)

#### 【環境共生の森におけるタネから森を育てる取組のイメージ】



(どんぐりのタネ拾いから始まる苗づくり)



(どんぐりの苗の植栽イメージ)



(育ってきた森での環境学習イメージ)



(環境共生の森将来イメージ)

※どんぐりの苗づくり、植樹や育樹活動など、小学校の低学年次から高学年次まで一貫して、各学年のカリキュラムに応じた環境学習プログラムを継続して行うことにより、森づくりを実施

## ○ソフト面のユニバーサルデザインの推進

これまで推進してきた施設面のユニバーサルデザインに加え、今後5年間については、施設面を補完するソフト面でのユニバーサルデザインを進めます。特に、アクティビティベースの情報提供<sup>(※)</sup>の充実や職員などによるきめ細やかなサポート体制の確立などを進めることによって、既存施設も含めた魅力アップを図り、来園者への一層のホスピタリティ向上に努めます。

※ アクティビティベースの情報提供とは、例えば、障害の種類ごとに園内でどのような活動や楽しみ方ができるかなどを紹介する情報を、パンフレットやホームページできめ細やかに情報提供すること。

### 【5年間の管理目標】

・ハード面の整備を補完するソフト面のユニバーサルデザインを進めます。

### 【数値目標】

・障害を持たれた方の年間利用者数(再掲)

25,987人(H19)→ 約3万8千人(H24)

## ○地域との連携強化

当公園では、季節に応じた花修景を中心とした大規模なイベントやクロスカントリーなどのスポーツイベント、野外コンサートなど多くのイベントを実施しています。

今後5年間については、引き続き公園の特色を活かしたイベントを開催するとともに、より多くの方々に学び、楽しんで頂けるよう、工夫しながら季節に応じたイベントを開催します。特に、志賀島など周辺地域の核として、歴史的・文化的資源も活かしながら、地域と連携した効果的なイベントを実施します。

また、ボランティア参加窓口の設置など公園づくりや環境学習、イベント企画・運営への市民参加が進みやすい環境を整備します。

### 【5年間の管理目標】

- ・地域と連携した効果的なイベントを実施します。
- ・ボランティアの方々が参加しやすい環境を整備します。

### 【数値目標】

・ボランティア活動人数

2,420人(H19)

→ 約5千人(H24)



＜地域の方による昔遊びの体験イベント＞



＜ボランティアによる花壇づくり＞

## ○コスト縮減

園内で発生する植物廃材の堆肥化など、ライフサイクルコストの低減に配慮しつつ、効果的・効率的な管理運営を行い、維持管理に係るコスト縮減を進めます。

### 【5年間の管理目標】

・一層の維持管理コストの縮減を図り、効果的・効率的な管理運営を進めます。

### 【数値目標】

・維持管理費のコスト縮減  
H19ベースより 6%縮減(H24)

## (4)5年間の整備・管理運営によってもたらされる効果

### ○北部九州地域の環境学習の核となるフィールドを提供できます

B地区「環境共生の森」の開園により、継続的かつ充実度の高い環境学習の実施が可能になり、他の公園管理者が質の高い環境学習を行いつつ、市民参加型で公園づくりを行う際に参考となるノウハウ等を提供することができます。

### ○地球温暖化防止等環境に対する市民の意識の向上が図られます

「環境共生の森」等における環境学習の実施と緑化の普及啓発により、地球温暖化の防止、循環型社会の構築に向けた市民の意識の向上が図られます。

### ○来園者が快適に利用できる公園になります

ハード面、ソフト面のユニバーサルデザインを計画的に進めることにより、すべての人が安心して楽しく利用できる公園になります。

### ○来園者、周辺住民の安全な避難場所を提供できます

老朽化した園内施設の更新や耐震化などを進めることにより、地震等の災害発生時に来園者及び周辺住民の方の安全・安心の確保を図ることができます。

### ○地域の活性化に貢献できます

近隣地域と連携した効果的なイベントの実施や公園づくりなどへの市民参加を進めることにより、地域の活性化が図られます。

◆ なお、本プログラムは、公園整備・管理を巡る社会情勢の変化、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。